令和４年度　学校経営計画・自己評価書

足立区立第十中学校
校長　　田村　和夫

１　学校教育目標

○　学び合う人
○　思いやる人
○　鍛え合う人

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・地域の小学校との円滑な接続を目指し、９年間を見通した積極的な連携事業を進める学校。 ・学力の向上と生徒一人一人の良さを伸ばす学校。 ・礼節を重んじ、規範意識が高められる学校。 ・保護者や地域との連携した教育活動を推し進める信頼された学校。
○児童・生徒像	・自ら課題を見つけ、自ら考えて積極的に学習する生徒。 ・お互いのよさを認め合い、誰とでも助け合う心の優しい生徒。 ・明るく素直で、健康な生徒。 ・目標へ向かってチャレンジする生徒。
○教師像	・生徒の手本となり自分自身を高め、学ぶ楽しさを教える教師。 ・誠実な心と正義感をもって生徒と向き合い、豊かな心や強さ、温かさを伝える教師。 ・保護者や地域とのかかわりを大切にし、協力を惜しまない教師。

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

〈学校の現状〉

ここ数年来「文武両道」の精神が伝統として引き継がれ、落ち着いた学習環境と自治的活動が根付いている。
生徒は全体的に明るく、人懐こく、真面目に学校生活に取り組んでいる。生徒会を中心に良き伝統づくりのため努力している。
教師は仕事熱心で、主幹教諭を核として組織的に教育活動を展開している。日々、授業改善に取り組み学習面での成果を上げようと努力している。
保護者、地域ともに学校に対する思いが熱く、生徒達の健全育成のため、学校支援に力を注いでくれている。

〈前年度の成果〉

・令和３年度足立区学力調査の通過率は年度当初 71.3%（達成目標 69%）、再調査では 79.7%に変容した。朝学習や補充教室が生徒の学習意欲の向上や基礎学力の定着に結び付いている。小中連携活動では、分かりやすい授業の実践、足立スタンダードの定着、言語活動にポイントを置いて指導案検討・研究授業を実施し、学習指導の研究を深めることができた。
・生徒アンケート「授業の内容がわかりやすいと感じますか。」で肯定的評価 1 年 96.7%、２年 96.3%、3 年 93.2%、学校全体で 95.3%であった。タブレット等ＩＣＴを活用した授業を実践する教員が増え、よりわかりやすい授業となっているはずだが、学年により授業規律や学習習慣に差がみられ、一部生徒の学力の定着が図られていないところもみられる。学校全体で同一歩調での指導を実践し、学校全体での学力アップを図る。
・保護者アンケート「本校の教育に満足している」では 1 年 84%、2 年 83%(-7)、3 年 91%(+12)である。全学年 100%目指して組織で取り組む。

4　重点的な取組事項

	内　　容	実施期間（年度）　R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	小中連携の推進	○	○	○	○	○
3	文武両道と豊かな学習環境、安全・安心な学校づくりの推進	○	○	○	○	○

5　令和４年度の重点目標

重点的な取組事項－１	学力向上アクションプラン

A　今年度の成果目標	達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題	達成度 ◎○△●
区学力調査の数値目標達成 分かる授業の実践 （ICT 機器、AI ドリルの活用）	全体 70%(+1) 国 69%(+1) 数 71%(+1) 英 70%(+1) 年度末１・２年 全体正答率 62%	全体 73.2%(+3.2) 国 72.6%(+3.6) 数 76.5%(+5.5) 英 70.4%(+0.4) 年度末１・２年 全体正答率 、後日入力	全体、各教科ともに通過率は目標値を上回ることができた。今後とも授業改善に努め足立スタンダードを踏まえた授業を実施していく。	◎

B　目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対　象 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認 方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	朝学習	全学年 ５教科 （国数英社理）	毎日 始業前 10 分	【指導体制】　学年教員 【目的・取り組み内容】 基礎的な学力の向上を図る。 単語・文法力（英）・計算力（数）・漢字の書き取り（国） 【使用教材】AI ドリル、自作教材	各コンテスト	正答率30%未満の生徒を全体の10%以下にする	正答率 30%未満の生徒の割合 全体 6.2% 国 6.9% 数 4.9% 英 9.1%	全体、各教科とのに目標とする 10%以下にするとができた。今後とも全校体制での朝学習を継続する。	◎

2 継続	放課後補習教室(抽出)	全学年 ３教科 (国数英) 各学年 10名程度	毎日 放課後 20分	【指導体制】学年教員 【取り組み内容・ねらい・目的】 個別指導による、基本的な学力の定着。単語・文法力(英)・計算力(数)・漢字の書き取り(国) 【使用教材】AIドリル、自作教材	区調査再テスト	対象生徒の80%が正答率を上昇させる	区調査復習テストで正答率を上昇した生徒(補充学習抽出)の割合 全体87.3% 国98.0% 数82.0% 英89.0%	全体、各教科ともに目標値の 80%を超えることができた。正答率の上昇していない生徒へのきめ細かい指導の継続が必要と考える。	◎
3 継続	放課後補充教室	全学年 ３教科 (国数英 ＋読書)	毎日 放課後 20分	【指導体制】全教員 【目的・取り組み内容】 英語:長文問題･英作文等、数学:文章題等、国語:読解問題･作文等で応用力を向上させる。 【使用教材】 各教科で用意する教材､AIドリル	区調査再テスト	区調査復習テストで生徒の50%が正答率を上昇させる	区調査復習テストで正答率を上昇した生徒の割合 全体71.9% 国62.3% 数73.3% 英80.1%	全体、各教科ともに目標値の 50%を超えることができた。しかし、教科、学年により上昇率にばらつきがあるので、きめ細かい分析を行い指導の改善を図る。	◎
4 継続	サマースクール	全学年 ５教科 (国数英 社理) 各学年約 30名	夏休み 期間中 の10日 間 各日45 分×3	【指導体制】全教員 【目的・取り組み内容】 英、数、国:応用クラスと基礎クラス(基本的な計算や英文の理解等)、その他の教科:当該年度の前半期の内容でつまずいた内容。少人数指導。 【使用教材】 各教科で用意するプリント教材、AIドリル	事前・事後テストの比較	得点が向上した生徒の割合を95%にする	事後テストで得点が向上した生徒の割合 全体99.6% 国100% 数86.0% 英96.6%	得点が向上した生徒の割合は英語で目標値を達成することができなかった。今後は目標値を超えるように学習意欲が出るような指導の工夫を行う。	○

5 継続	英語表現力向上活動	全学年 英語授業	毎授業 10分程度	【指導体制】英語科・ALT 【目的・取り組み内容】 Native English Speakerとの英会話に慣れさせ、英語で話すことに興味関心を持たせる。 【使用教材】 本校独自教材の会話シート	定期考査内のリスニングテスト 年3回の会話テスト（全学年） ＧＴＥＣ （２年）	正答率50%以上の生徒が85%以上 中級レベル以上の生徒が85%以上 CEFR-J　A1･3以上の生徒が50%以上	正答率 50%以上の生徒86% 中級レベル以上の生徒　65% CEFR-J　A1･3 以上の生徒が44.4%	英語の授業において計画的に表現活動が行われていたが目標を超えることはできなかった。 明海大学留学生との交流では表現活動、２，３年生の総合的な学習の時間の発表に英語表現を取り入れることができた。	△
6 継続	家庭学習の習慣化	全学年 全教科	定期考査前の２週間	【目的･取り組み内容】「学習の記録」を活用し、各生徒に家庭学習への意識を高めさせる。担任が各生徒の家庭学習状況を把握し、学年体制で未提出課題に取り組ませる。徐々に年間通して行えるようにしていく。	定期考査時に課題の提出状況を確認する	全学年、課題の提出率を85%以上にする	課題の提出率 全体87.3% １年84.5% ２年83.4% ３年94.2%	全体としての目標値85％は上回ったが１，２年生には課題が残った。今後は主体的に学習に取り組む意欲を育み目標値を超えるように指導をしていく。	∆
7 継続	キャリア教育 東京Global Gateway （TGG）	第2学年 英語	11月頃	【指導体制】英語科＋学年教員 【目的・取り組み内容】 半日の英会話体験 【使用教材】 TGGオリジナル教材	TGGからの評価	中級レベル以上の生徒が80%以上	参加者全員が中級レベル以上の評価	活動開始時はやや消極的な生徒もいたが後半になるにつれどの生徒も積極的な活動をしていた。	◎

重点的な取組事項－２	小中連携の推進

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・連携をとおした教員の指導力の向上。 ・生徒の学力定着に向けた連携の実施。 ・小中連携による中１ギャップ解消。	「指導力の向上」に対する教職員の肯定的な評価と「授業に関する」生徒アンケートの肯定的な評価を 90%以上にする。	・「授業の内容がわかりやすい」 全体 93.6% １年 94.3%　２年 93.3%　３年 93.4%	・今年度より小中の教員間で教え合う講習会を実施することで教員間の連携が深められ指導力の向上に繋がった。しかし、感染症対策のため児童生徒間の交流は制約された。	○

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○連携をとおした指導力の向上	・「教員同士の連携」に対する教職員の肯定的な評価を９０％以上にする。 ・「授業に関する」生徒アンケートの肯定的な評価を 90%以上にする。 ・保護者アンケート「教職員は使命感と熱意を持って教育にあたっている」の肯定的な評価を 90%以上にする。	・連携活動をとおして学習指導や生活指導について相互理解を深め、児童・生徒の発達段階を踏まえた効果的な指導について検討する。（主体的な学び・言語活動・足立スタンダードに重点を置く。） ・連携推進担当者同士の連絡会を実施し、具体的な連携の調整を図る。 ・児童・生徒についての情報を共有することでより丁寧な個に応じた指導を実施する。	・授業に関する生徒アンケート 「授業の内容がわかりやすい」 全体 93.6% １年 94.3%　２年 93.3%　３年 93.4% ・「教職員は使命感と熱意をもって教育に当たっている。 全体 78.0% １年 75.3%　２年 83.1%　３年 75.9%	年３回の指導案検討も含めた研究授業を計画通り実施した。また小中の教員間で教え合う講習会を実施することで教員間の連携が深められ指導力の向上に繋がった。これらの取り組みを通し、主体的な学び・言語活動・足立スタンダードに関する共通理解が深められた。	◎

○生徒の学力定着に向けた連携の実施	・「指導力の向上」に対する教職員の肯定的な評価を90%以上にする。 ・「授業に関する」生徒アンケートの肯定的な評価を90%以上にする。 ・保護者アンケート「学校は学力向上をめざし、授業や学習指導に積極的に取り組んでいる」の肯定的な評価を90%以上にする。	・円滑な接続を図るため接続のポイントを意識した教科連携を実施する。 ・２小学校と１中学校の３校でそれぞれ１回の指導案検討と研究授業（合同研究会)、３校合同研修会を実施し、分かりやすい授業の実施に向けた研究を進める。 ・子どもに対する理解の仕方や学習目標について各校の教員が共有し、児童・生徒の理解や学習目標の一貫性を図る。	連携小学校２校、本校で各１回ずつ研究授業を実施。事前に分科会での指導案検討を実施。 ・「授業の内容がわかりやすい」 全体93.6% １年94.3%　２年93.3%　３年93.4% ・「学校は学力向上をめざし、授業や学習指導に積極的に取り組んでいる」 全体84.0% １年84.5%　２年81.5%　３年86.2%	予定通り各学校１回全体で３回の研究授業とそれに向けての指導案の分科会が実施できた。また、小中の教員間で教え合う講習会を実施することで教員間の連携が深められ指導力向上に繋げることができた。	◎
○小中連携による中１ギャップ解消への取り組み	・交流事業に対する教職員の肯定的な評価を９０%以上にする。 ・本校へ入学を希望する生徒数を増やす。(抽選校)	・小学校６年生対象に中学校の教員による国語・算数の基礎学力教室「勉共会」を２回実施する。 ・12月に２校の小学校６年生に中学校体験、中学校紹介を実施する。 ・中学校から小学校へ教員が出向き授業を実施する。	勉共会は感染拡大の時期が重なり中止。 １２月に梅島第一小学校、１月に島根小学校の６年生の中学校体験、中学校紹介を実施。 中学校から小学校への出向き授業は中止。	中学校体験、中学校紹介は実施できたが、感染状況などにより勉共会、出向き授業が中止になった。このことにより中１ギャップ解消に向けた取り組みには課題が残った。	Δ

重点的な取組事項－３	文武両道と豊かな学習環境、安全・安心な学校づくりの推進

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・落ち着いた学習環境と部活動の活性化。 ・あいさつの励行、時間の厳守等、基本的な生活習慣の定着と感性を磨く学習環境の整備。 ・「いじめ０」、「不登校０」を目指す。	・「基本的な生活習慣の定着、生徒の安定した学習状況、いじめや暴力のない学校づくり」などの項目について、あてはまる、ややあてはまるの合計を８５％以上とし、「本校の教育に満足している」の合計を９０％以上にする。	・「基本的な生活習慣の定着」 全体 87.9%　１年 90.2%　２年 83.9%　３年 89.7% ・「いじめや暴力のない学校作り」 全体 83.7%　１年 86.0%　２年 78.2%　３年 87.1% ・「本校の教育に満足」 全体 85.9%　１年 85.2%　２年 84.7%　３年 87.9%	全体として目標値の90％を超えることができなかった。今後とも目標達成に向け指導改善を行う。	○

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○落ち着いた学習環境と部活動の活性化。	・保護者アンケートの「学校は学力向上をめざし、授業や学習指導に積極的に取り組んでいる」「学校は集団生活の基本的なことをしっかり指導している」「本校の教育に満足している」について、あてはまる・ややあてはまるの合計を９０％以上にする。 ・運動部の上位大会出場。 ・文化部の大会、コンクールでの受賞。	・全教育活動を通して、マナー、モラル、ルール遵守の必要性、重要性を説く。 ・各学年、各分掌が一体となり組織的に生活指導に対処していく。 ・定期的及び臨時の保護者会、学級懇談会、開かれた学校づくり協議会等を開催し保護者・地域との連携を図り、落ち着いた学習環境つくる。 ・部活動保護者会を適宜開催。 ・複数顧問による指導力向上。 ・発表会や作品出展の機会を多くする。	・「基本的な生活習慣の定着」 全体 87.9%　１年 90.2%　２年 83.9%　３年 89.7% ・「本校の教育に満足」 全体 85.9%　１年 85.2%　２年 84.7%　３年 87.9% ・卓球部都大会出場 ・吹奏楽部　東京都中学校吹奏楽コンクールＢ組銅賞 ・美術部　人権ポスターコンクール 金賞１名　銀賞１名　銅賞２名　佳作２名 薬物乱用防止ポスターコンクール 地区会長賞１名　佳作１名 ４月２０日　セーフティ教室 ９月２６日　命の安全教育 １２月１５日　薬物乱用防止教室	保護者アンケートは目標値を超えることができなかった。今後とも目標達成に向け改善を行う。 部活動に関して各部活動ともガイドラインにそった運営がなされている。 また、美術部は多くの作品が入選し、感性を磨く学習に寄与している。	○

○あいさつの励行、時間の厳守等、基本的な生活習慣の定着と感性を磨く学習環境の整備。	・保護者アンケート「生徒の態度や服装はきちんとしている」「生徒はあいさつや言葉遣いなどの礼儀を身につけている」の項目において、あてはまる、ややあてはまるの合計を 90％に近づける。	・学校の教育活動全体、保護者や地域との連携であいさつ運動を展開していく。 ・教室や各階の展示物、掲示物の工夫を行い感性が磨かれる学習環境や生活環境を作っていく。 ・経済同友会から講師を招聘してキャリア教育を実施する。 ・留学生によるゲストティーチャー授業の実施。	・「態度や服装がきちんとしている」 全体 87.4%　1年 87.3%　2年 84.7%　3年 90.5% ・「あいさつや言葉遣い礼儀を身に付けている」 全体 83.2%　1年 81.0%　2年 85.4%　3年 83.6% １０月１７日　明海大学留学生交流会 １月２０日　経済同友会キャリア教育 美術科作品の日常展示 オーケストラ鑑賞教室３月６日実施（文化庁子供のための文化芸術鑑賞・体験再興事業）	学校内での生活では服装の乱れもなく挨拶や言葉遣いに配慮し落ち着いた学校生活を送っているが、残念ながら保護者アンケートの数値としては表れなかった。 外部講師の招聘、美術科作品の展示、オーケストラ鑑賞教室などを通し、キャリア教育の充実、感性を磨く学習の充実が図れた。	◎
○「いじめ０」と「不登校０」を目指す	・保護者等の外部評価において、「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」という項目において、あてはまる、ややあてはまるの合計を 90％以上にする。	・いじめ防止基本方針に基づき、いじめ予防と解消を図る。外部機関と連携しいじめ防止教室を実施する。 ・諸調査を基に、ＳＣ、特別支援教育コーディーネーターを中心に各学年集団、生徒個人の指導の共通理解を図り、指導を深めていく。	・「いじめや暴力のない学校作り」 全体 83.7％　１年 86.0％　２年 78.2％　３年 87.1％ ・特別支援教育に関するミニ研修を２回実施	保護者アンケートでは目標値を超えることができなかった。今後とも校内における組織的対応、SC,SSW の活用や外部機関との連携を図り、きめ細やかな対応をしていく。	○

６　まとめ

〈学校の現状〉

ここ数年来「文武両道」の精神が伝統として引き継がれ、落ち着いた学習環境と自治的活動が根付いている。

生徒は全体的に明るく、人懐こく、真面目に学校生活に取り組んでいる。生徒会を中心に良き伝統づくりのため努力している。

教師は仕事熱心で、主幹教諭を核として組織的に教育活動を展開している。日々、授業改善に取り組み学習面での成果を上げようと努力している。

保護者、地域ともに学校に対する思いが熱く、生徒達の健全育成のため、学校支援に力を注いでくれている。

〈今年度の成果〉

・令和４年度足立区学力調査の通過率は 73.2％（達成目標 70%）で昨年度 71.3％より上昇した。朝学習や補充教室が生徒の学習意欲の向上や基礎学力の定着に結び付いている。小中連携における研究授業、講習会の取り組みを通し、分かりやすい授業の実践、足立スタンダードの定着、言語活動にポイントを置いて指導案検討・研究授業を実施し、学習指導の研究を深めることができた。

・生徒アンケート「授業の内容がわかりやすいと感じますか。」で肯定的評価１年 94.3%、２年 93.3%、3 年 93.4%、学校全体で 93.6%（+1.6）であった。タブレット等ＩＣＴを活用した授業を実践する教員が増え、よりわかりやすい授業にするための授業改善が行われている。
またAI ドリルの活用などを通して学校全体での学力アップを図られている。

〈今年度の課題〉

・全体として落ち着いた環境の中で学習に意欲的に取り組んでいる生徒が多いものの、一部学習意欲に欠け学力の定着に課題がある生徒がいる。
・不登校傾向の生徒へのきめ細かい指導と保護者・関係機関との連携をさらに推し進め、不登校の改善を図る。
・生徒が主体的にものごとに取り組む姿勢や規範意識の育成、基本的生活習慣、学習習慣をしっかりと身につけさせる。
・落ち着いた学習環境と安全・安心な学校生活を継続して提供するためのシステムの確認と再構築を引き続き実践していく。
・保護者アンケート「教員は生徒との信頼関係を築けるよう努めている」の肯定的評価が 76.7%(-5.3)と前年比 6%ＵＰ 、「本校の教育に満足している」では 1 年 85.2%(+1.2)、2 年 84.7%(+1.7)、3 年 87.9%(-3.1)と 90%を超える頃ができなかった。100%目指してより信頼される学校を目指し組織で取り組む。